



2019年度 出前講座報告書

NO.4

2019年10月18日 県南保健福祉事務所

災害保健活動の実践から学ぶ地域保健活動の 原点と保健師の役割

～Social・Capitalを醸成する健康づくり&地域づくり活動～

東日本大震災の被災地域では、直接的支援活動とそれら活動と並行して地域と協働したソーシャル・キャピタルの再構築や地域づくり活動が行われてきました。今回は、この実践されてきた活動から得られた教訓や成果を共有し、今後の地域保健活動のあり方や方法について学ぶことを目的に開催いたしました。



講義の様子



講義では、本来の保健師の役割である地域保健活動と活動を協働で実践できる組織づくり、地域づくりの意義、重要性について学びました。さらに災害復興におけるSocial Capital醸成による効果、影響についてのお話から、従来の実践から得られた新たな視点も取り入れた災害保健活動を考えることが重要であることを学びました。

講師紹介



福島県立医科大学医学部
災害公衆衛生学看護学講座
教授 末永カツ子

略歴

- 自治体保健師として保健所、児童相談所、発達相談支援センター等に勤務
- 東北大学大学院教育学研究科後期博士課程修了(教育学博士)
- 東北大学医学系研究科 地域ケアシステム看護学分野教授
- 長崎大学・福島県立医科大学 共同大学院 災害被ばく医療科学共同専攻教授

専門領域

- 公衆衛生学
- 地域ケアシステム論

グループワークの様子

グループワークでは、台風19号についての被害状況や対応について情報共有を行いました。また、講義終了後には、講義の内容を踏まえ、今回の災害対応においてどのような取り組みが必要であるかについて意見交換し整理しました。



▶グループワークでは、今回の被災状況や対応について意見交換すると共に課題についても共有しました。

アンケート集計結果

参加者は16名、アンケート回収は12名でした。

	そう思う*
研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった	92% 50% 92%
講義について 講義内容が理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う	67% 100% 92%
話し合いについて 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	92%
あなたご自身について 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	67% 83%

参加者の感想(一部抜粋)

- このタイミングとテーマで講義やグループワークを行ったり、情報共有出来たことは大変有意義でした。
- 貴重な情報交換が出来ました。ありがとうございました。今後も災害保健活動についての研修がありましたら是非参加させていただきたいと思います。
- 勉強になりました。ありがとうございます。

復習ポイント

- ✓ Social Capital醸成と地域づくりについて
- ✓ これまでの災害保健活動から取り入れられる本来の地域保健活動とは

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計